

# 地域おこし協力隊“奔走中”

あれほど暑かった夏が過ぎ、すっかり肌寒い季節になり、冬の訪れも近づいています。炎天下は大変ですが、寒い冬も厳しい。立科町の場合、町を歩くのにいい季節は意外と短いかもかもしれません。

昨年の着任以来、町を知るためによく歩きます。花や水田の景色など季節の移り変わりを楽める一方、いろいろと発見もあります。例えば通学路の歩道を見て「こんな場所で切れては危ないのでは?」、同僚の協力隊も奮闘していますが「ここにも空き家がある。いい活用はないだろうか?」などと考えるいい時間です。

立科町は「観光の町」を標ぼうしています。しかし、朽ちて見えない道路の案内標識や、老朽化して役に立たない町の名所案内の表示など、いくつか目についた場所を指摘してきました。車では見過ごしてしまうようなことも、歩行者の目線だからこそ見つけれられることはたくさんあります。

アメリカの犯罪学者が提唱した「割れ窓理論」をご存じでしょうか。1枚の窓ガラスが割れているのを放置すると、他の窓ガラスも割られるようになり、やがて町全体の治安が悪化する…という考え方です。この町の場合は治安に問題はないのですが、観光客や町外者に優しい道路標識や薄汚れた案内表示を放置している光景は、だらしのない印象を与えかねません。

歩くのにいい季節です。なにより健康にもいいので、ご自身の体調に合わせて歩いてみませんか。もし、町中で発見や何か気づいたことがあれば、協力隊でも結構なのでご連絡ください。「割れた窓ガラス」を1つでもなくしていきたいのです。

●産業振興担当  
芳賀 宏です。



## DX

Digital Transformation  
デジタル・トランスフォーメーション

AI (人工知能) と統計



こんにちは。デジタル化推進専門官の渡邊です。今回はAI(人工知能)と統計について紹介したいと思います。皆さんは、「AI(Artificial Intelligence:人工知能)」と聞いて何を思い浮かべられるでしょうか。

自動車の自動運転やスマートフォンの「顔認証」、スマートスピーカー等、今ではAIの影響を受けていない産業をみつけるのが難しいとも言われています。内閣府でもAIを「第4次産業革命」として取り上げ、日本の未来を開く成長戦略として位置づけています。

「AI」と聞くと「簡単に問題を解決してくれる最先端技術」と思われがちですが、実は「統計」が深く関わっています。AIは機械学習で膨大なデータを解析して、ルールや判断基準などから「問題を解決するための手順や計算方法」を導き出して利用します。統計分析も、データにもとづいて未知のパターンの認識や分類に応用できる形にまとめる点で共通しています。

近頃では「ビッグデータ」や「ディープラーニング(深層学習)」という言葉をよく耳にしますが、このディープラーニングも統計的機械学習であり、統計がその基盤を支えていると言われています。

2020年度からプログラミング教育が小学校で必修化されましたが、統計についても国の機関や全国の自治体が小中学生向けに学習機会を積極的に設けています。もちろん立科町役場も統計に取り組んでいます。皆さんも一緒にチャレンジしてみませんか?



★なるほど統計学園

← 総務省統計局 リンク集

<https://www.stat.go.jp/naruhodo/link.html>